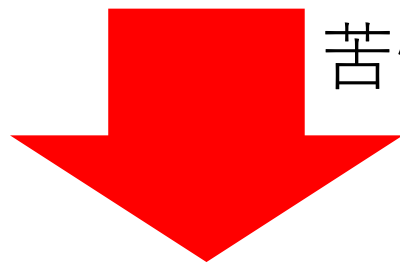


岡崎市立中央図書館大量アクセス事件 (Librahack事件)

渡部 聖大

2010年3月

「岡崎市立中央図書館の蔵書検索システムに接続できない」
との苦情があった



苦情を受け図書館が被害届を提出

5月25日

とある男性Lが逮捕された



しかし

6月14日

男性Lは保釈された
(悪意があったわけではなかった為)

きっかけ

男性L

蔵書検索システムが非常に不便だった
→便利に使うためのプログラム(合法)を組んで使った

システム
管理会社

同様のプログラムによる被害(不具合)が起これることを認知していた

しかし図書館には報告していなかった

図書館

管理会社に相談したが解決しなかった為、DoS攻撃を受けていると考えた

教訓

- 図書館は専門家・専門機関(JPCERT,IPA等)に相談してから警察に被害届を出すべきだった
(ちゃんとした手順を踏むべきだった)
- 警察もそうした専門知識を持った人々に協力してもらった上で起訴すべきだった
- 管理会社は顧客に不具合が起こることを報告すべきだった
↑ 人の名誉を傷付ける事件へと発展したら、どのみち会社の名誉はボロボロ

参考文献

- 岡崎市立図書館Librahack事件からみてきたもの

<http://www.nal-lib.jp/events/reikai/2010/277report.html>

- 容疑者から見た岡崎図書館事件

<http://librahack.jp/readme/>

- 朝日新聞（2010年8月21日） asahi.com

1. 図書館HP閲覧不能、サイバー攻撃の容疑者、だが…
2. なぜ逮捕？ネット・専門家が疑問も図書館アクセス問題
3. ソフト会社、図書館側に不具合伝えずアクセス障害問題